

科目名	教育実習A			ナンバリング	EDU171	授業形態	実習
対象学年	4 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	5 単位
代表教員	中島清州	担当教員	石川哲夫				

授業の概要	本科目は、5～9月までに実施する教育実習を実際に体験し、教職への情熱や使命感を形成する重要なものである。具体的に、教育実習校で体験したことについてまとめ、報告書を作成する。グループ討議や全体討議で自らの成果や課題を実践的に把握し、教員採用試験等に向けた準備を行う。更に、各自の作成した学習指導案の確認や資料を活用し、教職に対する高い専門性を深めることを目標とする。						
到達目標	1 教育実習での体験を踏まえて、理論的・実践的に教職に対する情熱や使命感、専門的力量を高める。 2 各自の課題についてグループ討議等を通して深め、教職課程履修の方向性を定める。 3 他の人と協力し合いながら様々な活動について取り組み、教職課程履修のねらいである豊かな人間力を高める。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	教育実習のための手引きや日誌を基に、実際に学校現場で行われていることを体験的に学ぶ良い機会である。教育実習で最も大切なことの一つが「心と体の健康」であり、指導教諭を含めて他の教師との同僚性を形成するための基礎的な学びになるように意欲的に取り組むこと。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 教師として必要な基礎的理論と実践を理解している。 2 学級担任や校務を行う上での教師として必要な基礎的な技術を身に付けている。 3 子どもや保護者との人間関係及び教師としての同僚性などの基礎的な人間力を身に付けている。	1 教師として必要な情熱、使命感や「教える」という技術を基にした理論と実践力を理解している。 2 学級担任や校務を行う上での基礎的な技術を身に付け、学習指導・生徒指導理論を踏まえて基礎的な技術を理解している。 3 子どもや保護者との人間関係を構築し、他の教師と協力して同僚性を発揮するなど基礎的な人間力の在り方を理解している。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業への参加態度			○	○	○		40%
小テスト・授業内レポート	○	○					20%
宿題・授業外レポート	○						40%
出席			○	○			出席は加算対象とならず、欠席は減点対象

課題、評価のフィードバック	1. テーマについて主体的に関わり互いに議論を交わし、学習内容について学修を修正し深めていく。 2. 各時限のそれぞれの講義のレジュメを基にリフレクションペーパーに授業考察・疑問・質問項目を書き入れ、次時にフィードバックし、予習・復習に役立てる。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション(以下、全て教育実習校での取り組み)	講義概要の説明:「教育実習」学修の目的と授業設計(教育実習とは何か)の全体像について知る。	
	第2回	実習校の説明・校長講話	校長・教頭等管理職から学校経営概要・教育実習の心得について説明・講話を受け、受講姿勢について理解する	
	第3回	実習校の説明・係担当者講話	校長・教頭等管理職、教務主任・生徒指導主事・進路指導主事、担当指導教諭から学校経営概要・教育実習の心得、教育活動の実際についてに関する説明を受け、講話などの受講姿勢について理解する	
	第4回	学級活動・ホームルーム活動①	学級活動・ホームルーム活動における生徒への連絡報告指導を担当する。学級担任と共に朝・帰りの学級活動・ホームルーム活動活動や給食・清掃指導などについて理解する	
	第5回	学級活動・ホームルーム活動②	学級活動・ホームルーム活動について模擬指導を行い、総括反省をする	
	第6回	授業参観	指導教諭の指導の基に授業を参観する心構えについて理解する	
	第7回	教材研究①教科指導	指導教諭の指導の下、実習で担当する教科の教材研究、学習指導案の作成、その他必要な授業の準備等を行うことについて理解する	
	第8回	教材研究②道徳特別活動	指導教諭の指導の下、実習で担当する道徳・特別活動(学級活動)の研究、学習指導案の作成、その他必要な授業の準備等を行うことを理解する	
	第9回	教科指導	実際の授業や宿題・提出物等の点検・添削を行うことについて理解する	
	第10回	研究授業	実習先学校が指定した日程の基に実習生の授業を公開する。他の教職員、実習生、大学教員等が参観して行うことについて理解する	
	第11回	評価・反省会	研究授業の総括・反省をし、研究協議を行う。校長・教頭・指導教諭並びに研究授業を参観した教員等、出席者からの指導を大切に自分なりの反省することを理解する	
	第12回	校務	指導教諭の指導の下、学校運営で必要な事務や作業等を行うことについて理解する	
	第13回	課外活動	課外活動や部活動、学校行事等についてその目的・意義を基に生徒の指導に当たることを理解する	
	第14回	教育実習日誌・記録整理	教育実習日誌記録記入について、自分なりの観点を持って整理する	
	第15回	まとめ	教育実習終了者の体験を相互に聞き、これまでの学修項目についての自分なりの考えをレポートにまとめる	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。討議を必要とする授業テーマについてはグループ協同学修形態体験を取り入れる。		
授業外学習の指示		配付資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科書等で確認するか教員に質問すること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	なし
参考書	授業中に適宜資料を配付する。
参考URLなど	
その他	この授業は、全ての教職課程科目のベースとなる内容である。できるだけ欠席を避けること。